

第65回未来教室 杉並区立桃井第一小学校

- 1、学校名 杉並区立桃井第一小学校 杉並区桃井2-6-1 (Tel. 03-3390-3178)
校長 内田 裕司 連絡 副校長 高橋 耕平
- 2、実施期日 平成26年3月11日(火) 家庭科室-1, 2時間目
- 3、実施学年 5年生(4クラス)
 - (1) 1時間目(午前8時50分~) 1, 2組合同-1組(田部 崇先生) 2組(田中桂子先生)
授業者 理研「わかめ教室」担当者(3名)様 ※司会 田中桂子先生
 - (2) 2時間目(午前9時40分~) 3, 4組合同-3組(坊本朋久先生) 4組(雨宮聖路先生)
授業者 理研「わかめ教室」担当者 様 ※司会 坊本朋久先生(3組担任)
- 4、授業実施企業
学校給食用食品メーカー協会 「理研ビタミン株式会社」
担当 畠山 雄樹 様(営業推進部) 仁科 陽子 様 八幡 暁子 様 (事業推進チーム)

当日の様子



未来教室参観記録

おやじ日本未来教室担当 高島信義

授業準備中の家庭科室に入っていくとブーンと磯の香りがしてきました。子どもたちを授業に引き込むお膳立てができていました。これまで、わかめ教室は、実施してきましたが、本日は、くしくも震災が起きた3年前の3月11日です。被害にあった岩手県から震災の復興の一番手に挙げられると思われるワカメが届いていました。そのワカメで今日の授業がおこなわれます。感慨もひとしおです。

桃井第一小学校は、数年前から体育、食育に取り組んだことで知られています。「体力」(からだ力)は、「食」を大切にしてからこそ身に付くもので「心」と合わせて総合力の力の結集ですと「内田校長先生」。それこそ、導入で示された「わかめパワー」だと思いながら授業に参加しました。

1時間目は、1, 2組です。2組担任の田中先生の司会で進められるワカメ博士(仁科さん)との軽妙かけあいは、子どもたちをぐんぐん授業に引き込んでいきます。わかめの生産地や成長の条件等、基本的な内容の確認が軽快に進み、いよいよあの磯の香りのする実物大のワカメが登場しました。実物に触った子どもたちの興奮は、驚きの声と共に一気に学習雰囲気盛り上がりました。次に、ワカメの「色の変化」について実験を通して学び、最後に、体に入ったわかめの働きについて確認しました。あっという間に45分間が過ぎました。授業には、校長、副校長先生、そして、栄養士の石川さんまでも参観されたのは、食育に対する学校の取り組みの深さに感心させられました。

2時間目、3, 4組の司会は、3組の坊本先生です。これまた、仁科博士との見事な掛け合いともいえる授業のバトンタッチは、子どもたちを見る見る授業に引き込んでいきました。

このような授業ができるのは、企業側にしっかりした指導案の存在があるからです。そして、この指導案がよくこなされているという実態です。担任を、司会者にすることは、授業を進める上での一方法であることが、この授業を参観してわかりました。又、授業がうまくいくのは、校長先生、担当学年の先生方の協力が必至です。事前の打ち合わせ等を含めて企業と支援した「未来教室」の担当者とのコミュニケーションの必要性を改めて感じさせられました。

「わかめパワーについて探ろう」

杉並区立桃井第一小学校 第五学年担任

この授業のために、(株)理研ビタミン講師陣に事前にご来校いただいて指導案や授業の進め方の打ち合せを行い、また、教材も事前に送っていただきましたので、ゆとりもって臨むことができ、準備もスムーズに進めることができました。

授業の導入段階で主な産地等のクイズが出され、学習に取り組む意識づけができましたが、「どのくらいの頻度でわかめを食べているか」を質問してもよかったと感じました。

深める段階として、本物のわかめを見、触り、熱湯に浸すと褐色が緑色に変わる実験をし、食物繊維が塩分やコレステロールを体外に出す様子を視覚的に理解させるといった、とても充実した活動でした。子どもたちには興味深い内容で、わかめ博士の仁科さんの話を真剣に聴き、発問にも積極的に手があがりました。

理研ビタミンの指導案はとても分かりやすく、授業の進行を担当とわかめ博士が分担しましたが、担任が話すべき内容と博士が話す内容が分けられ、スムーズな指導が行えました。熱湯を使う実験で担任が安全面について指導した点もよかったと思います。

最後に、指導方法や内容について、担任間の話し合いで、クラス単位の授業であればもう少し子どもたちの意見を引き出したり広げたりすることができた、塩分やコレステロールを体外に出さなければならない理由を話せばよかった、わかめ漁師の苦労を理解させる話があればよかったなどが出されました。

わかめ教室は社会科、家庭科、総合的な学習などの教科と関連するとともに興味深い内容でした。早朝から準備をし、充実した授業をしていただいた(株)理研ビタミンの皆様、心より感謝申し上げます。

未来教室参観記録

おやじ日本未来教室担当 高島信義

授業準備中の家庭科室に入っていくとプーンと磯の香りがしてきました。子どもたちを授業に引き込むお膳立てができていました。これまで、わかめ教室は、実施してきましたが、本日は、くしくも震災が起きた3年前の3月11日です。被害にあった岩手県から震災の復興の一番手に挙げられると思われるワカメが届いていました。そのワカメで今日の授業がおこなわれます。感慨もひとしおです。

桃井第一小学校は、数年前から体育、食育に取り組んだことで知られています。「体力」(からだ力)は、「食」を大切にしてからこそ身に付くもので「心」と合わせて総合力の力の結集ですと「内田校長先生」。それこそ、導入で示された「わかめパワー」だと思いながら授業に参加しました。

1時間目は、1, 2組です。2組担任の田中先生の司会で進められるワカメ博士(仁科さん)との軽妙かけあいは、子どもたちをぐんぐん授業に引き込んでいきます。わかめの生産地や成長の条件等、基本的な内容の確認が軽快に進み、いよいよあの磯の香りのする実物大のワカメが登場しました。実物に触った子どもたちの興奮は、驚きの声と共に一気に学習雰囲気盛り上がりました。次に、ワカメの「色の変化」について実験を通して学び、最後に、体に入ったわかめの働きについて確認しました。あっという間に45分間が過ぎました。授業には、校長、副校長先生、そして、栄養士の石川さんまでも参観されたのは、食育に対する学校の取り組みの深さに感心させられました。

2時間目、3, 4組の司会は、3組の坊本先生です。これまた、仁科博士との見事な掛け合いともいえる授業のバトンタッチは、子どもたちを見る見る授業に引き込んでいきました。

このような授業ができるのは、企業側にしっかりした指導案の存在があるからです。そして、この指導案がよくこなされているという実態です。担任を、司会者にすることは、授業を進める上での一方法であることが、この授業を参観してわかりました。又、授業がうまくいくのは、校長先生、担当学年の先生方の協力が必至です。事前の打ち合わせ等を含めて企業と支援した「未来教室」の担当者とのコミュニケーションの必要性を改めて感じさせられました。